

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・ 5 〉	いわき市立	平第五	小学校
〈実施日〉	平成 28 年 6 月 16 日 (木)			
〈実践教科等〉	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。			
1 理科	② 学級活動	3 総合的な学習の時間	4 その他 ()	
〈実践内容〉	1 実態把握 第3学年 男子13名 女子 16名 計29名 ・ 九条区域外就学児童 2名(男子2名) ・ 給食において放射線が心配で牛乳・米飯を止めている児童 なし ・ 5月の遠足で、外でお弁当を食べることを心配していた保護者 なし ・ 放射線や放射性物質という言葉は、低学年の時の学習やニュースなどで聞いた事はあるが、意味はあいまいという児童が多い。 2 授業のねらい 放射線の存在を知り、放射性物質を体に多く取り込まないように気をつけて生活できるようにする。 3 授業の流れ (1) なぜ、うがいや手洗いをを行うか考える。 (2) 放射性物質から影響を受けないための方法について考える。 ・ 放射線や放射性物質とは何かを知る。 ・ 放射性物質の多い場所について知る。 ・ 放射性物質から影響を受けないための方法について話し合う。 (3) 「ハウシャ線ってなんだろう」の紙芝居を見る。(一部抜粋) (4) 日常生活で気をつけることについて確認する。 【使用した資料】「小学生のための放射線副読本」(文部科学省) 「ハウシャ線って何だろ」(除染情報プラザ)			
〈成果〉	・ 放射性物質を体に取り込まないために、何か特別なことをするのはなく、病気の予防などのために普段していることをきちんとやればいいのだということを理解することができた。 ・ 放射性物質の多い場所について知ることにより、わざわざ近づいたり水たまりに入ったりは避けようという意識をもつことができた。			
〈課題〉	・ 人体への影響について、自然界も存在する物で心配はないという話をしたが、たくさん受けると影響があるという話の方が印象に残った児童がおり、必要以上に不安にさせないよう「体に受ける放射線の量と健康」についてどのように伝えるか考える必要がある。 ・ 放射線教育について指導者自身が研修を積み、理解を深めていくことが大切であると感じた。			
資料作成担当者職(教諭)氏名	(平子真紀・大石裕子)		学校電話番号(25-3265)	

【資料作成上の注意】

- 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
- 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)